

令和6年度 第1回八尾市自殺対策計画審議会評価部会 議事概要

1 日時：令和6年9月12日（木） 10時30分～12時00分

2 場所：八尾市保健所2階 大会議室

3 出席委員

委員6人中5名出席（内2名はWEB参加）

4 内容

1) 委員紹介

2) 議事

(1) 八尾市自殺の現状について

(2) 八尾市自殺対策推進計画の最終年度の状況について

★会長

令和6年3月末に八尾市自殺対策推進計画（第2次）を策定してから最初の評価部会である。まず八尾市の自殺の現状や、前回計画の最終年度の状況について事務局から報告していただく。

その後、第2次計画で定めた5つの基本施策の取り組みについて報告していただき、現在の取り組みや今後6年間の計画期間での取り組み等をどのように進めていくか、各委員から率直なご意見をいただく形で進めたい。

<資料1、2に沿って事務局より説明>

★学識経験者

令和5年の自殺者数が昨年より20人減少と割合的には大きく減少したことは非常に良かった。

男女別の自殺死亡率について、八尾市では男性は増加傾向、女性は減少傾向と説明があった。自分は柏原市でも行政の自殺対策に携わっている。柏原市では、女性の自殺者が減少しない。女性向けのゲートキーパー手帳を作ろうかという意見も出ている。市によって随分違いがあることを感じている。

前計画の目標達成率は高く、皆さん頑張って自殺対策に取り組んでこられたと思う。

★学識経験者

自殺死亡率が減少していることについて素晴らしい事と受け止めている。世代や性別によって違いがある背景や理由について、行政機関としてどのように受けとめているか。

資料2の(3)「全事業数あたりの自殺対策の取り組みの増加」について比率で表しているが、この増減で何が見えてくるか、どのように読み取るのかを聞きたい。

★副会長

令和5年の自殺者数が昨年より20人減ったことは非常に良いことだが、令和3年の数に戻っただけともいえ、これからも対策は必要。

八尾市の自殺者数の推移は、男性が70歳代で増加、女性は減っているが、50歳や60歳代に多い。高齢者への対策が必要だろう。

ゲートキーパー養成講座を熱心に行い、八尾市にたくさんのゲートキーパーが誕生した。ゲートキーパーテキストも非常に良いものを作っている。ゲートキーパーに関する問題点はあるが、成果はあったと思う。

資料2の(3)の数値については、八尾市で実施している491事業の内、227事業が自殺対策に関わっているという事か。

★その他市長が適当と認める者

女性の自殺死亡率は減っているが男性は増えている。これまでの審議会でも意見しているが、男性は相談するところがない又は相談できない。一方女性は、何か集まりの機会があれば参加される。男性にアプローチすることは難しい。今後、男性への自殺対策を考える必要があると感じた。

★会長

先程、副会長からも意見があったが、自殺者数の変動をどう考えていくか。人口動態統計における自殺者数もみる必要があるが、発見地での変動の幅をどう考えるか。この変動について、他市でもよくあることなのか、事務局よりコメントいただきたい。

計画策定とその間新型コロナウイルス感染症(以下「新型コロナ」という)の影響があり、色々な対策が円滑に進められなかったことを考えると、令和5年の自殺死亡率の減少が対策の成果とは論じられないだろう。自殺者数が変動しやすいならば、対策をどう評価して、取り組みの進捗をどのように確認していくのか。自殺対策の基盤整備を重視して捉えていくのがよいと思うが。

★事務局

近隣他市の自殺死亡率の経年変動の状況は十分確認できていないが、八尾市の人口規模、或いはさらに少ない人口規模のところでは、この程度の変動が起こりうる可能性はあるの

で、3か年平均で見えていく形が適していると考えている。

★会長

八尾市の自殺の状況を説明するとき、年齢階級などあまり細かい部分での増減を強調しない方がよいかもしれない。

★事務局

男性の自殺死亡率増加の背景について、昨年度、計画策定にあたって市民意識調査を実施した。回答率が3割であり、全市民の意見が反映されているわけではないが、男性は女性に比べて、悩みを相談する方が非常に少ない。実際に私たちが支援する中でも、死にたい気持ちを抱える男性が少なからずいる。その中には、経済的な問題、生活問題などが背景になっている方も多く、市民意識調査でも表れている。ただ、それらが直接的な原因であるとは言い切れないと捉えている。

資料2の(3)「自殺対策を推進するための基盤づくりと自殺対策の取り組み数の増加」について、前計画を策定した当初、自殺対策事業を総合的かつ効果的に進めていくため、基盤づくりやネットワークの強化を図り、自殺対策に関連する取り組みをふやしていくことが、評価の1つになると考えた背景がある。他分野の生きる支援にあたる人々が、自殺対策の一翼を担っていることを意識し共有することを大きな目的としている。毎年度全課照会を行い確認している中で、「自分たちも自殺対策に関わっている」と認識してもらうよう働きかけを行っていた。実際には機構改革等で市全体の事業数も増減し、具体的な評価は難しかったため、第2次計画では継続して実施せず、別の指標にしている。

自殺者数の増減について、委員から、柏原市での女性の自殺死亡率が減少しないとお話があった。人口規模の大きくない一市町村での数の増減について、判断の難しさを感じている。

★学識経験者

資料1で八尾市の自殺統計を示しているが、自殺に至る背景や理由が記載されていないのは、何か理由があるのか。もちろん、自殺の真の理由が何であるかは、誰にもわからない。様々な要因が複合的に重なって自殺に至ることは明らかになっていると思うが、最終的な引き金は何であったのか、わかる範囲である程度追跡しておく必要があるのではないか。

★事務局

参考資料2の自殺対策推進計画(第2次)13ページに記載しているが、自殺に至った要因としては、健康問題が一番多いと認識している。

★会長

委員より始めに「引き金」という言葉があったが、この部分は議論が難しいところだと思

う。自殺の要因は様々ある中で、その引き金という部分を掘り下げていこうと思うと、個別の事例分析をしていく必要がある。引き金の議論が強くなってしまうと、責任論に傾いてしまうことがあり、ご遺族や周囲の方にとっても辛い話になることがあるため、やはり個別の事例を丁寧に検討していくことが大事だと思う。

(3)八尾市自殺対策推進計画（第2次）の取り組み状況について

・資料3に沿って事務局より説明

★会長

まず総括として、前計画期間においては、新型コロナの流行という状況があり、保健所が新型コロナ対応の最前線で活動する中で、自殺対策にも取り組んでいた。新型コロナ対策そのものが、実は自殺予防にも大きな役割を果たしたという見方もできる。そういう中で自殺対策の基盤づくりに取り組んできた。前計画で取り組みたかった基盤整備が第2次に持ち越されてスタートしたという状況である。

事務局より八尾市自殺対策推進計画（第2次）の基本施策1～5に関する取り組みについて説明があったが、それぞれ評価委員からご意見をいただきたい。

★学識経験者

非常に細やかに様々な機関、部署と連携されて取り組まれていると思う。

先ほどの自殺統計の中で、20歳未満の方の自殺があった。20歳未満の若年層に対する取り組みをどのように考えているか聞きたい。

★事務局

若年層の取り組みについては、これまでも教育部門の人権教育課との連携によって、教員に対し研修を実施する等取り組んでいる。また、「こども・いじめ何でも相談課」などとも連携をとり、相談支援等を行っている。

★学識経験者

学校の教員に対して働きかけ研修を進めているのが、非常に重要なポイントになるだろう。自分も府で教員に関わっているが、八尾市でもぜひ研修を継続していただき、教育関係者の自殺予防について理解を深めていただきたい。

★会長

委員のご意見については、事務局よりそれぞれ行政の部署にお伝えいただければと思う。

★学識経験者

第2次計画で新しい取り組みがいくつかあるが、動画を作成しているのは良いと思う。これからも、自殺対策に限らず必要な取り組みや施策は増えてくると思うが、増やす一方だと行政は負担が大きい。省力化・合理化できる工夫の1つとして、動画を用いることは適切だと思う。同時に、それが上手くいったのか評価できる指標を示した方が良い。経年でその効果や課題を明確にしたらよいと思う。

先ほどの意見交換で、資料2の(3)についてご説明いただいたときも、行政全体で自殺対策に取り組んでいるビジョンのもと指標を定めたと話されていた。目標にうまく直結できるような指標をたててはどうか。

評価というと、進捗管理の評価・改善の評価・或いは説明の評価など、それぞれ機能が少しずつ違うが、新しい取り組みの場合は、進捗管理だけではなく、何がうまくいったか・うまくいかなかったか、ということがわかるような観察も重ねて行ってほしいと思う。必ずしも対策数が増えることだけが良いことではないと思う。ぜひ効果的な新しい対策にも取り組みつつ、整理もしていただければと思う。

★副会長

基本施策(1)の普及啓発動画について、実際に動画を拝見した。非常に素晴らしい。ビジュアルがとても良く、たくさんの方の市民の方にご覧いただきたいと思える動画だった。キャラクターのきくにゃんにセリフをしゃべってもらうような工夫もあるとより面白い。10分程度の動画であり、SNS等を活用してたくさんの方に見ていただくと、普及啓発に大いに役立つだろう。今後非常に強力なツールになると思いを期待している。

ゲートキーパー養成も非常に重要な取り組みだが、実際に養成したゲートキーパーについてどのようにフォローするか。ゲートキーパーは難しいことをしていただくことになる。講座の理解度は8割あるが、20%は理解できにくかったということ。また、講座を受けたときは理解できても、知識を維持していくのは難しい。ゲートキーパーのフォローをどうするか。或いはゲートキーパーが困ったときに、どう対応すればよいか相談できる場所が必要ではないか。

また、ゲートキーパーの活動実績の分析も必要ではないか。ゲートキーパーがどんな取り組みをされたのか、実際に死にたい気持ちをもつ方に関わったケースがどれくらいあるのか等、調査するのは難しいかもしれないが、調べられないだろうか。PDCAのC(チェック)の部分で、ゲートキーパーがどのように活躍していただけているのか、関心がある。

参考資料3に自殺対策に関連する事業が記載されている。自殺対策は、生きることの促進要因をふやして、阻害要因を少なくするというのが基本的な考え方になる。八尾市で取り組んでいる事業で、市民が元気に生きていくための支援をしているということはよくわかるが、やはりその中で、自殺対策に関わる度合いは事業によって違うと思う。一律に全部同

じ表にしてよいかどうかは考える必要があるだろう。市民の生きる元気を増やすためにやっていることと、自殺対策に直接関わっていることを、何か色づけできないかと思う。

基本施策（4）の自殺未遂者支援について、54件あったということだが、どのような結果になったのか。支援がどう役に立ったのか検討してPDCAを回していければと思う。

★事務局

ゲートキーパーのフォローについて、ゲートキーパーに対しての直接的なものではないが、今年度、支援者への支援・ケアという内容で研修を予定している。実際に死にたい気持ちのある方を支援するのは、支援する側も非常に負担があり、それを聞く管理者もどう対応していくかというところで非常に困っているということは、これまでの審議会でもご意見をいただいていた。ゲートキーパーの直接的なフォローということにはなりにくいかもしれないが、そのような研修を行って、支援者の心のケアを進めていきたい。

新型コロナ流行でゲートキーパー養成講座自体なかなか取り組めていなかった為、まずはその取り組みを進めながら、ゲートキーパーのフォローをどうしていくか、また審議会委員の皆さまにもご意見いただきながら考えていけたらと思っている。

また未遂者支援については、すぐにデータで分析することは難しいが、実際に現場で取り組んでいる相談員の支援状況を見ると、介入することによって問題を解決できたり、すぐには解決できなくても、何らかのアプローチで良い方向に進んでいけたりすることがあるので、支援者が入るといふことの大切さを実感している。PDCAでチェックして、データのどのように出せるか考えていけたらと思っている。

★副会長

支援者への支援だが、どのような方を対象にされるのか。

★事務局

関係機関の職員、例えば地域包括支援センター（高齢者あんしんセンター）、計画支援の相談員、障害サービスの事業者、社会福祉協議会などを想定している。

★その他市長が適当と認める者

ゲートキーパー養成講座をもっと増やし、この審議会で作成したゲートキーパーテキストを活用し、皆さんの目に触れる機会があれば良いと思う。

ゲートキーパー養成講座ですが、まず悩んでいる人に気づくことが大事で、そのような機会のある方、例えば民生委員など、高齢分野になるが地区福祉委員会の方等に向けてゲートキーパー養成講座を実施されてはどうか。また、ゲートキーパー養成講座を保健所職員だけにするのは大変だと思うので、ゲートキーパーとなった方に、ゲートキーパー養成講座を手伝っていただけるような仕組みを作れないだろうか。

昨年度、審議会委員所属団体向けのゲートキーパー養成講座があったが、啓発時期が遅く、参加できない方が少なからずいらっしまった。開催日については早めに周知していただきたい。

地域包括支援センターの職員もまだゲートキーパー養成講座を受けてない人がおり、受けていても異動や退職等で職員が変わっているのので、地域包括支援センター向けのゲートキーパー養成講座も実施していただきたい。

★事務局

市民向けのゲートキーパー養成講座については、今年度 11 月 6 日午後から実施予定で、民生委員を対象としている。昨年度の審議会で、講座の内容が専門職と市民が同じでは、市民は負担が大きいのではないかとご意見あり、そのご意見を踏まえて内容をリニューアルし、市民向けのゲートキーパー養成講座に取り組もうと考えている。

★会長

各委員からご意見をいただき、事務局から回答をいただいたところだが、私からも追加させていただく。

今は自殺対策の下づくりをしている段階だと考えている。啓発、ゲートキーパー養成等の人材の育成、相談支援の周知と充実、自殺未遂者支援、関係機関の連携・ネットワーク、これら全てに根をはっていきような作業を進めているところで、その中で気づかれた事から、また具体的な取り組みを進めていくことが、今後の基盤になっていくのだと思う。それぞれの事業について、やってみてどうだったかということをもた次回ご報告頂けたらと思う。ただし、他の委員も話されていたが、事務局の業務がただ増えるだけにならないよう、ポイントを絞ってやっていくことが必要だろう。

ゲートキーパーの取り組みについては、行政の計画としてマンパワーをどのように考えているのか、ゲートキーパーが実際にどのような活動をしているのか等、市議会等で質問されることが考えられる為、何に重点を置いているのか、その研修を受けた人がどのようなことを身につけていったのか等、報告しやすい内容を準備していただけたらよいと思う。

★副会長

基本施策（3）の相談支援の周知・充実について。先ほど色々な事業で八尾市民の生きることを促進させるために取り組まれていると話されたが、相談窓口や関連する事業が多数ある。実際、市民の方が一覧をご覧になり、どこに相談しようかという時に迷われないか。窓口を増やしてどのような相談でも応じていくことは生きることの促進に大事だが、例えば自殺の個別支援に関わる部分は色分けするなどしたほうが、相談する市民としては使いやすいのではないかと思う。

★事務局

相談窓口一覧を作成しており、ホームページにも公開している。それぞれ相談内容によってカテゴリーごとには分けている内容であるが、より見やすくなるようにできるか、考えて行ければと思っている。

★副会長

それぞれの相談窓口で、自殺に関する相談を受けたことや、対応に困った状況があったか等をデータとして拾うことは可能か。

★事務局

自殺対策推進会議という形で、庁内連携を推進する会議を設けており、自殺対策の取り組み等について各部署から意見等をいただいている。今委員からいただいたご意見も踏まえ、今後進めていきたい。

地域共生推進課に「つなげる支援室」ができ、つながるカードが発展的に解消された。複合的な問題のある、相談窓口につながりにくいケースをキャッチして必要な支援につないでいくという構造について、八尾市は特に力を入れている。またつなげる支援室では、関連の窓口の職員が、困りごとを抱えた市民をキャッチできる感覚を高められるような研修も実施されており、そのようなことの成果も今後必要に応じて紹介していければと思う。

★会長

できるだけ実際の相談窓口のリアルな活動が詳しく伝わるような形で、次回評価部会の際に報告していただくというような形でお願いしたい。副会長はいかがか。

★副会長

そうしていただけるとよい。相談窓口に関わった時、自殺の懸念があったとか、実際にどこか他の窓口につなげたようなことがあれば、数も出てくればよいと思う。

★会長

次回の評価部会の際、実際の活動が伝わるよう具体的な内容や、課題は何かというところを率直にご紹介いただけたらと思う。

議題全体通して或いはその他にも通して、他にご意見はあるか。

★事務局

事務局からお尋ねしたいことがある。自殺対策関連事業について、もう少し濃淡がつけられないかという話があったと思う。先日会長も講演された自治体職員向けの研修会を拝聴し、その中で「自殺対策」の定義がされていないということを課題として問題提起されている

たことが非常に印象に残っている。その辺り踏まえ、定義を捉えるにあたり、どのような観
点で整理していくのがよいか、ご助言をいただきたい。

★会長

自殺対策基本法に自殺対策の定義がないと認識している。同法二条に基本理念は書かれて
いるが、基本理念とは「こうあることが望ましい」という姿を書いているだけであり、そ
れを定義とは言わない。この問題点については別のところでも議論していきたいと思っ
ている。

国の自殺対策計画づくりの手引きを見ると、自殺対策に関係しそうな事業を全部棚卸し
をしてリストを作るとあるが、そうすると優劣がはっきりしなくなる。何に重点を置くのか、
何に取り組みたいのかという重点課題的なものを抽出し、進めていくということだと思
う。

資料 3 で、第二次計画の取り組みについてと、基本施策といくつかの事業が挙げられて
いるが、例えば基本施策(3)であれば、各課相談窓口の紹介とあるが、相談窓口の中でど
こに重点を置いて動向を見ていくとか、重みづけが大事なのではないか。これはとても大事
な話なので、審議会等でもご意見をいただき、話し合ってもいいと思う。職員の方たちから
コメントをもらうような機会もできたら良い。

★学識経験者

資料 3 の自殺対策関連事業シートをみると、色々な事業の中にも、困り事が起きたとき
につながる窓口と、自殺の要因そのものを作らないようにするような事業がある。例えば食
育推進事業は困りごとが起きてから繋がる窓口ではなく、健康づくりを支援して自殺の要
因が芽生えないようにするものだろう。ネガティブなことが起きてからそれを軽減するた
めの事業と、よりポジティブにして、自殺を遠ざけるようにするような取り組みをする事
業について、色分けはできるのではと思っている。

これらすべてが自殺対策に必要であるということは間違いない。ひとりひとりの方の居
場所やサポーターがあるかどうかも自殺対策においては大きなキーワードであり、それ
をしているところはたくさんある。そういうことも含めて、事業を色分けしていくとわかり
やすくなるのでは。

★会長

先ほど委員から、新しい事業の観察というご意見があったが、今話していた「重点」とい
う部分とつながる点があれば、追加でご意見をいただきたい。

★学識経験者

P D C A サイクルという考え方は、決まったものをうまく回すことに適しているが、
OODA (ウーダ) サイクルの考え方では、オブザーブ (観察)、オリエン (状況把握)、デ

ビジョン（決定）、アクション（行動）のサイクルがある。初期の頃はよく観察をした上で方向を決め、そこで意思決定をして動いてみてどうだったのかを考える。初期の時期にはチェックする項目自体もはっきりしていないことがあるので、観察することが大事な状況もあろうかと思う。そうすると、ここまで議論があるような、ミッションの方から分けしていき、何が自殺対策かという見立て方もできると思う。逆に、どのような状況を作りたいのかというところから照らして作業することも、道を見失わないためには重要かと思った。

冒頭資料 2 の (3) についてお答えいただいた時には、八尾市全体で対策に取り組む為、その中で自殺対策に関わる事業がこれだけあるという見せ方をすることが重要であると返答をいただいたと思うが、例えばゲートキーパーであれば、どのような所に行き渡らせたいかということや、或いは自殺未遂者支援であれば、自殺未遂をした方達にどのような支援を提供出来ることを八尾市として目指していくのか、というような大きなビジョンを共有するという方法もあると思う。

しかし、一朝一夕にできることではないので、よく観察し、先ほど会長がまとめて頂いたように、次回、現場の感想のような事も聞かせていただきながら、整理していけると良いのではと思う。

★会長

次回、基本施策いろいろ取り組まれている中でこのような発見があった、やってみたらここでつまづいた、ここは大変だった等、その様な所も是非お聞かせいただけたらと思う。

また基本施策 (4) については、今までの未遂者支援と言われている枠組とは違った、重要な取り組みであると思う。

一般に未遂者支援というと、よく言われるのは、自殺企図をして 3 次救急に受診した患者をケースマネジメントしていくという発想が多いが、その場合にはまず身体への受傷が基本になり、そこから関わりがスタートしていく。かつ、実際の入院期間は 1 日～2 日と短い中で支援をどうするのかという話になってくる。

八尾市の自殺未遂者支援の場合、警察署から自殺未遂者本人や家族の同意を得て保健所に連絡があるという形で、背景にある事情が異なっており、また違った形で本人や家族に接触して話を聞ける可能性がある。その特徴があるので、少ない事例でも構わないので、何か説明を用意して頂けると意味のある展開になるのではないかと。

全体的に八尾市の取り組みはとても良いと思う。自殺対策の定義の問題等があるが、ある程度焦点づけをして進めていくということは大事なことだと思うので、是非行政側の率直な提案をいただけると、審議会委員もそれに対しコメントしていけると思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

★会長

最後に副会長からご意見追加頂き事務局に戻したい。

★副会長

本日、非常に有効な議論ができたのではと思う。

それぞれの委員がそれぞれの立場で意見を述べたわけだが、ぜひ事務局の方でそれを反映して頂き、更に八尾市の自殺対策が有効なものになるようにと思っている。

★会長

事務局におかれましては各委員からの意見を整理し確認していただき、またその意見を元に今後の事業を検討していただけたらと思う。

(4) その他

★事務局

八尾市自殺対策計画審議会については、令和7年2月の開催を予定しており、近くスケジュールの調整をさせていただきます。

5 閉会